



図1 畑の準備

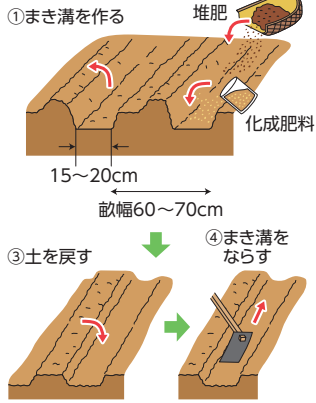
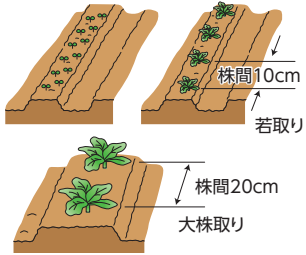


図2 間引き



植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまき、深く土を耕しておきます。1週間前に畝幅60〜70cm、幅15〜20cmの溝を掘り、この溝1m当たり元肥として化成肥料(NPK各成分10%)100g程度と堆肥2kgを施して土を戻し、くわでまき床が平らになるようならしめます(図1)。

炒め物に向く「黄からし菜」(トーホク)や葉が柔らかくそのまま食べられる「サラダからし菜」(トーホク)があります。

【品種】 秋まきし、秋〜冬取りが一般的です。

カラシナ(芥子菜)はアブラナ科の結球しない野菜で、夏の暑さに弱いものの、寒さには強い野菜



カラシナ

ピリツとした辛みを楽しむ

カラシナ(芥子菜)はアブラナ科の結球しない野菜で、夏の暑さに弱いものの、寒さには強い野菜

【種まき】

溝全体に2cmほどの間隔のバラまきで種まきします。苗を作る場合は、9cmポリ鉢に5〜6粒まき、間引きして本葉5〜6枚の苗に仕上げます。

【間引き】

じかまきでは、1回目は本葉2〜3枚時に株間5〜6cm、2回目は本葉5〜6枚時に株間10cmくらいに間引きします。

その後、1株おきに若取りし、残された株で大株取りもできます。初めから大株取りを狙う場合は、株間を20cmくらいにします(図2)。

【管理】

大株取りでは、追肥として年内と年明けに、1回当たり畝の長さ1mにつき化成肥料を50gくらい与えます。厳寒期の冬取りでは、霜による葉傷みを軽減するために不織布をべたがけると良いでしょう。

【病害虫防除】

アオムシ、コナガにはゼンターリ顆粒水和剤(BT剤)などで防除します。種まき後に防除ネットや不織布をべたがけて害虫の食害を防ぎましょう。

なす太郎のポイント指南

1か所に花芽が複数付いた時は早めに1つを残して摘み取り、1個の充実した果実に育てます。

今月の管理ポイント

8月は気温が上がり日照もあるため、なすの生育が旺盛となります。こまめな追肥、灌水、病害虫防除をかかさず行いましょう。摘葉(葉をかく)、花柄摘み、脇芽取りなど細かな管理もしっかりと行います。

★摘葉を随時行い、樹間の風通しを良くして中までお日様の光をしっかりと届かせます。風通しを良くすることで、うどんこ病、灰色かび病などの予防効果が上がります、花芽の付きも良くなります。



★簡単な支柱立てを紹介いたします。本格的な金属支柱でなくても「いぼ竹」などを使って簡単な支柱が出来ます。紐で誘引すれば金属支柱仕立てと同じように充分育てることが出来ます。

